



装飾活動で作った装飾

余暇から将来のステップへ

今までの余暇活動は、1つの活動を利用者の方みんなで行っていました。しかし、足羽学園に入所されている方の年齢層(5歳～17歳)が幅広く、どうしても高学年の利用者の方が主体になってしまうことなど多くの課題がありました。そこで、すべての利用者の方に充実した余暇活動ができるようにグループ分けをして活動を始めました。

今回はその活動内容とグループ化をしたことにより、利用者の方にどのような変化があったのかをご紹介します。

取り組みについて

足羽学園では、週末日中活動として「グループ余暇」という名前で企画し実施してきました。その目的・ねらいとして次の3つのことがあります。

① 利用者の方に対して、落ち着いて有意義な時間を過ごしていただくために計画的に実施することで、利用者の方の不穏を少しでも解消し過ぎていただく。

② 園内の利用者の方を多種(障がい・年齢)の視点からグループ分けし、活動することによって、家庭に近い環境の中で、安心感をもち、職員との信頼関係が築けるようにする。

③ グループ余暇活動を振り返ることで、将来的な小ユニット化に向けて「小規模ケア」のメリット・デメリットについて評価する。

活動の始まり



グループ分けボードを見て、それぞれの活動へ移動

利用者の方はグループ分けボードを見て、自分が今日どんな活動をするか確認します。1グループ4〜6人で構成されており、①未就学〜小学生②中学生③高校生と3グループ編成になっています。活動時間は30分〜1時間です。

余暇活動には、カラオケ・軽運動(マット運動・リレーなど)・紙芝居・絵本の読み聞かせ・装飾活動などがあります。活動時間になると職員と一緒にそれぞれの活動場所へ移動して活動します。職員はそれぞれの活動状況や改善すべき点を記録用紙に記入して、今後の活動につなげていきます。



折り紙を切っています。



ポイ捨て選手権に挑戦中です☆

● 余暇の種類が増えてうれしい。
● 人数が少ないからいっぱい遊べる。
● 職員といっぱい話せてうれしい。

利用者の方の声

● 少人数で活動することにより、今までと比べ、利用者の方の不穩が少なくなりました。
● 少人数ということで見守りに余裕ができた分、利用者の方とのかかわりが十分に取れるようになりました。
● 週末に近づく、利用者の方が自分から週末のような活動をするか楽しみにされている姿を見て、やりがいをもって取り組むことができています。

職員の声

足羽学園では、現在19名の利用者の方が入所されています。グループ余暇を始めたころは、自分がしたいグループに名前がないと納得いかず、すねる行動が見られました。しかし、回数を重ねるうちに見通しをもって活動に参加することができるようになりました。活動後「今日何したの?」と利用者の方同士で会話したり、作品を得意げに見せたりする場面が見られ、うれしく思います。また、玄関先に貼ってある作品を保護者の方が見られ「季節が感じられるのを楽しみに学園に来ます」との言葉もいただき、職員の意欲にもつながっています。

今後も利用者の方と共に楽しい余暇活動にしていき、小人数での家庭的な暖かみのある生活環境を整えて、1人ひとりに合った丁寧な支援を目指してまいります。

児童発達支援管理責任者
瀧波 克代